

1. 略歴

1978年3月	東京大学法学部第一類（私法コース）卒業
1986年8月	連合王国ブリストル大学古典学・考古学科留学（1988年7月まで）
1992年2月	Ph.D.学位取得（連合王国ブリストル大学）
1978年4月	東京大学法学部助手
1982年4月	新潟大学教養部講師
1986年4月	新潟大学法学部助教授
1992年4月	新潟大学法学部教授
1993年11月	オクスフォード大学クライスト・チャーチ客員研究員（1995年1月まで）
1995年4月	新潟大学大学院現代社会文化研究科担当（「古典社会文化論」担当）
1999年9月	オクスフォード大学ベイリオル・コレッジ客員フェロー（2000年9月まで）
2002年4月	新潟大学法学部法政コミュニケーション学科長（2003(平成15)年3月まで）
2004年4月	新潟大学大学院実務法学研究科教授
2006年4月	大妻女子大学文学部コミュニケーション文化学科教授
2011年4月	東京大学大学院人文社会系研究科教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

西洋古典学 ギリシア・ローマ法

b 研究課題

- 1 古代ギリシア人の「対立状況における行動様式」の特徴を、*compliance* と *defiance* という概念枠組を用いて、経済、法、宗教、哲学等の諸側面から総合的に考察する。
- 2 ギリシア法を「ギリシア語で書かれた法および裁判に関する文献」と広義に捉え直し、とりわけ民事訴訟をローマとパラレルにとらえることによって、その体系性と技術性を明らかにする。さらに、従来の見方を逆転してローマ法をギリシア法の普及として捉え、古代から近代にいたるギリシア法の歴史を通観する。
- 3 西洋学問の近世・近代の日本への移入を「文化転移」として、「普及」と「翻訳」という視点から総体的に把握する。

c 主要業績

(1) 論文

Yasunori Kasai, "In search of the origin of the notion of *aequitas (epieikeia)* in Greek and Roman Law", 『広大法學』37巻1号、2013.6、p.543-564

葛西康德「古代ギリシアにおける法（Nomos）の概念について—とくに「立法者」および「立法者」に焦点をあわせて—」国際哲学研究（東洋大学国際哲学研究センター編、別冊2「〈法〉概念の時間と空間—〈法〉の多様性とその可能性を探る」、51～60頁、2013.3

葛西康德、「Compliance and Defiance in Ancient Greece」『文化交流研究』：東京大学文学部次世代人文学開発センター研究紀要（25）、23～27頁、2012

(2) 書評

葛西康德、「五十君麻里子「ローマ大衆の法知識—プラウトゥス喜劇における「笑源」としての法」」『法制史研究』、63号（法制史学会年報2013）、307～310頁、2014.3

葛西康德、「古山正人「キュテラとキュテロディクス」」『國學院雑誌』109巻6号（平成20年6月）「スパルタとペリオイコイの法的軍事的関係」『國學院雑誌』111巻6号（平成22年6月）、「法制史研究」61号（法制史学会年報2011）、340～345頁、2012.3

(3) 学会発表

国際、KASAI, Yasunori, 「The authority of law in the Greek forensic oratory—the law as evidence and the lawgiver」、21st British Legal History Conference 'Law and Authority'、University of Glasgow, United Kingdom、2013.7.11

国際、KASAI, Yasunori, 「Philosophical foundations of the notion of *aequitas (epieikeia)* in Greek and Roman Law」、Southern African Society of Legal Historians Conference May 2013 'Ius est ars boni et aequi', Kwa Maritane, South Africa, 2013.5.13

国際、KASAI, Yasunori, 「The notion of 'uncanny' in Ancient Greece」、The 2013 IEEE International Conference on Robotics and Automation (ICRA 2013), Karlsruhe, Germany, 2013.5.11

(4) 研究会報告

葛西康德「法源としての学説と条理—Law Books in Action と Tony Honoré, Ulpian, 2nd ed. の紹介—」グローバル社会における法源論の再検討研究会、宇和島歴史資料館、2014.3.15

葛西康德「東京大学草創期の授業再現（東京大学大学院人文社会系研究科「多分野交流演習」授業について）」グローバル社会における法源論の再検討研究会、宇和島歴史資料館、2014.3.15

葛西康德・野津寛「グローバル社会と哲学・古典—国家公務員試験改革—」日本学会会議公開シンポジウム「グローバル化社会における伝統知と古典教育の意義を探る」、中村元記念館東洋思想文化研究所、2013.11.23

国際、KASAI, Yasunori, “Tony Honoré on *aequitas (epieikeia)*” Symposium “Roman Law and Civilian Tradition—Japan and Scotland—”, Ross Priory, U.K. 2013.8.26

葛西康德「法政コミュニケーション学科 (1995-2003 年度)の経験—成果と問題点」シンポジウム「ミクスト・リーガル・システム論の展開 法政コミュニケーション学科の研究教育をどう活かすか」、新潟大学、2013.2.23

葛西康德「古代ギリシアにおける法 (Nomos) の概念について—とくに「立法」および「立法者」に焦点をあわせて—」、シンポジウム「〈法〉概念の時間と空間—〈法〉の多様性とその可能性を探る」、東洋大学国際哲学研究センター、2012.12.15

葛西康德「ギリシア民事訴訟制度研究史」ギリシア・ローマ民事訴訟研究会、追分、2012.11.3

葛西康德「グローバル教育について」国際シンポジウム「日加比較の新たな視点—ミクスト・リーガル・システム論の展開」新潟大学、2012.11.11

葛西康德「パネルディスカッション『東大新図書館を考える』」シンポジウム「東大新図書館を考える：文字・書物・読書の現在」東京大学、2012.10.20

国際、KASAI, Yasunori, Comments, “Sources of Law in an Age of Globalization: From the Perspective of Mixed Legal Systems”, 九州大学法政学会シンポジウム、九州大学、2012.6.4

(5) 会議主催 (チェア他)

国際、「Symposium “Roman Law and Civilian Tradition—Japan and Scotland—”」、主催、Ross Priory (University of Strathclyde), U.K., 2013.8.26

国際、「Tokyo-Edinburgh colloquium」、主催 (Douglas Cairns 教授と共同)、Old Medical School, University of Edinburgh, 2013.8.24

国内、「グローバル社会における法源論の再検討研究会」、主催、宇和島歴史資料館、2014.3.14~3.16

国際、「ギリシア法・ローマ=オランダ法講演会」、主催、東京大学、大阪大学、2013.3.20~4.1

国内、「ギリシア・ローマ民事訴訟研究会」、主催、宮城県追分、2012.11.3~11.4

国際、「第2回混合法研究会『コモン・ローとヒンドゥー法—その邂逅からインド契約法成立まで—』」、主催、東京大学、2012.9.13

国際、「第1回混合法研究会『パーマー教授の混合法系理論 ルイジアナ法からの広がり」と日本法への示唆』」、主催、東京大学、2012.6.8

(6) 総説・総合報告

葛西康德「はじめに—海を渡ったローマ法—」(特集 法典化の19世紀—(ポスト)コロニアル・パースペクティブ)『19世紀学研究』8号、5頁、2014.3

葛西康德「おわりに—『二等国連合』—ミクスト・リーガル・システムの戦略—」(特集 法典化の19世紀—(ポスト)コロニアル・パースペクティブ)『19世紀学研究』8号、53~54頁、2014.3

葛西康德「学問の普及と継受—西洋古典 学研究室の場合」(前編)『U7』、vol.50、54~57頁、2013.7、(後編)『U7』、vol.51、52~58頁、2013.9

葛西康德、「開かれた日本の大学へ」、『大学出版』、91号、1~9頁、2012

葛西康德「グローバル化の中のイギリスと日本—Being a Frontier Man (Woman)—ロンドンオリンピック2012に寄せて」両国高等学校 言語能力向上推進事業・講演会、両国高等学校、2012.10.19

(7) 共同研究・受託研究

科学研究費基盤研究挑戦的萌芽研究 (H24～H26) 「コモン・ローとヒンドゥー法の邂逅—ウィリアム・ジョーンズ研究」(代表)

科学研究費基盤研究 (B) (一般) (H23～H26) 「ギリシア・ローマ民事訴訟再検討—裁判手続と法廷弁論—」(代表)

科学研究費基盤研究 (A) (一般) (H25～H28) 「ユダヤ・イスラーム宗教共同体の起源と特性に関する文明史的研究」(分担) (研究代表者: 市川裕)

科学研究費基盤研究 (B) (一般) (H22～H25) 「グローバル社会における法源論の再検討—法学概論の書き換え—」(分担) (研究代表者: 小川浩三)

科学研究費基盤研究 (C) (一般) (H23～H25) 「ミクスト・リーガル・システム論による日本法の比較法的再定位—一条理、名誉毀損、信託」(分担) (研究代表者: 松本英実)

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

2012 年度

大妻女子大学「法律と現代社会」非常勤講師 (2 単位)

新潟県農業大学校「くらしと法律」非常勤講師 (2 単位)

2013 年度

大妻女子大学「法律と現代社会」非常勤講師 (2 単位)

新潟県農業大学校「くらしと法律」非常勤講師 (2 単位)

津田塾大学「ギリシア語」非常勤講師 (4 単位)

千葉大学法科大学院「法制史」非常勤講師 (2 単位)

(2) 学会

「日本西洋古典学会」「日本法制史学会」「日本宗教学会」「19 世紀学会」

「法とコンピュータ学会」(理事)

The Hellenic Society, The Selden Society, World Society of Mixed Jurisdiction Jurists

International Academy of Comparative Law (Associate member)

(3) 行政

北陸信越地方交通審議会船員部会公益委員

(4) 学外組織 (学協会、省庁を除く) 委員・役員

日本学術会議連携会員

新潟大学超域学術院運営委員会委員